

生活上の困りごと 保険外で支援提供

iki-iki (横浜市) は、高齢者など生活上の困りごとを抱える人と、それを支援できる地元住民をマッチングするサービスをフランチャイズ方式で展開している。2022年8月現在、全国74市区での展開となり、提携事業者数は50を超えた。



iki-iki
大場航期代表

利用者は、買い物同

行・代行、庭の草むしりや部屋の整理など、「ちょっと誰かに頼りたい」ことについて、電話(フリーダイヤル)もしくはWEBサイト

から依頼。サービスを提供する事業者は「ソーシャルメイト」として登録している地元住民の中から、条件が合う人を探しマッチングする。ソーシャルメイト側はマッチング完了の知らせが届いたら依頼者を訪ね、必要な支援を提供する。利用料金は1時間1500円で交通費は



▲草むしりを行うソーシャルメイト。利用者の話し相手にもなる

別。ソーシャルメイトの報酬は1200円となっている。iki-ikiに支払うロイヤリティはその地域の人口に応じた金額となっ

ており、平均約3万円。市区町村単位でエリア分けし、そのエリアでFC契約をするのは原則1法人のみ。大場航期代表は、「今

後、日本の高齢者を支えるには、かつての近所つきあいのような住民同士の助け合いが不可欠であると思い、このサービスを立ち上げました」と語る。

ソーシャルメイトは自分の都合に合わせて活動できるため、高齢者、障害者、子育て中の人なども登録可能。「全ての人が活躍できる社会の実現に貢献します」(大場代表)。

ソーシャルメイトとして活躍している50代男性は、精神疾患と付き合いながらも活動を

続けている。2週間に1度、89歳の高齢者宅を訪れスマートフォンを使い方をレクチャー。男性は、「誰かに必要とされている」という喜びを実感できる」と語る。依頼者は定期的な家に訪れるソーシャルメイトを新たな家族のような存在に思い、毎回の訪問を心待ちにしていると。大場代表は「こ

現在FCの提携事業者は、遺言・相続などを行う各種士業、遺品整理業者などが多い。大場代表は、介護事業者がこのサービスの親和性は非常に高いと考え、今後、介護事業者へのアプローチを強化する方針。「例えば訪問介護では、ヘルパーが介護保険のサービスに加えて、部屋の電球交換など保険外の

住民同士、助け合い

うした新たなつながり、人間関係の構築に資することもこのサービスの特徴です」と話す。

依頼にも対応できます。「高齢者の困りごとをワンステップで解消する」という差別化が可能です」と語る。今年10月には専用のアプリケーションの運用がスタートする。依頼から料金の支払い、マッチングまでをシステム上で可能とし手間を軽減することで、依頼者、ソーシャルメイト、FC提供事業者が参加しやすくなるねらいだ。

介護ビジネスの未来を創る 週刊高齢者住宅新聞

Elderly Press Newspaper

2022年(令和4年)

8月24日

第683号 (毎週水曜日発行)

(株) 高齢者住宅新聞社

〒104-0061

東京都中央区銀座8-12-15

☎03-3543-6852(編集部)

発行人 網谷敏敏

年間購読料 23,100円(送料込・税込)

ホームページ

<https://koureisha-jutaku.com>

サービス差別化
新規顧客開拓に